

医師・歯科医師国家試験（2023年）

歯科医師国家試験がますます難化

合格率は医師 91.6%、歯科医師 63.5%

2023年3月

去る3月16日に2023年の医師・歯科医師国家試験の合格者が厚生労働省より発表された。医師国家試験は1万293名受験して9,432名合格し、合格率は91.6%、歯科医師国家試験は3,157名受験して2,006名合格し、合格率は63.5%であった。大学別の合格率は医師が100%から79.2%とほぼ均一の合格率でしたが、歯科医師は95.0%から24.3%と大学によって大きな隔たりがありました。

ある大学関係者は「江戸時代に口中医とと呼ばれた歯科医師は、口唇、頬粘膜、上下歯槽、硬口蓋、舌前3分の2、口腔底に、軟口蓋、顎骨（顎関節を含む）、唾液腺（耳下腺を除く）を診療しなければならないのですが、昭和時代に社会問題になった虫歯パンデミックに対応するため歯を削って詰め、抜いて入れ歯を入れるという矮小化された歯科医療を行わざるを得ませんでした。しかし、足りなかった歯科医師数も適正に増え、やっと本来の口中医医療を行う余裕が出てきました。今はまさに大きなパラダイムシフトの最中なのです。残念ながらパラダイムシフトの認識には大学間で大きな温度差があり、国家試験の合格率の差もその認識があるかどうかの差ではないかと思えます」とのこと。

確かに最近の歯科医療を鑑みれば、歯周病菌が様々な臓器を侵すことが次々と証明され歯科医師が介入しなければならない内科疾患が増えています。さらに日本人の死因の多くを占める誤嚥性肺炎を予防するため口腔内の肺炎球菌を制御するのも歯科医師の仕事であり責任になっております。